令和２年度　入学試験（２月２日実施）

算　数

［50分］

［注意事項］

1．試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないこと。
2．解答は、すべて解答用紙に記入すること。
3．問題は1～6まであります。ページが抜（ぬ）けていたら、すみやかに手を上げ、監督（かんとく）の先生に申し出てください。

東京農業大学第一高等学校中等部

1　次の各問いに答えなさい。

（1）$\frac{1990}{\square}+\frac{1991}{\square}+\cdots\cdots+\frac{2019}{\square}+\frac{2020}{\square}=31$　のとき、□にあてはまる数を答えなさい。

ただし、□にはすべて同じ数が入ります。

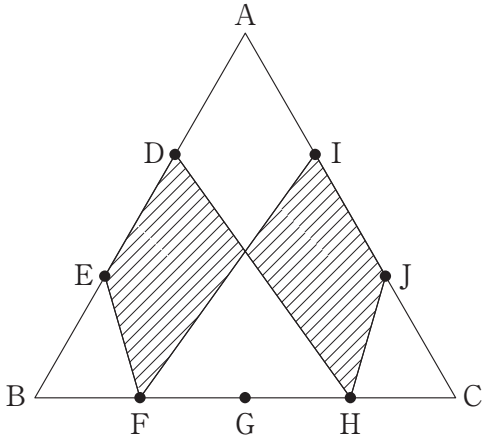
（2）$(1-0.000001)\times 100\div 0.01\div 0.0001-1\div 0.00001$　を計算しなさい。

（3）兄弟２人で文具店へ買い物に行きました。兄は1500円の筆箱を64％引きで買い、弟は鉛筆（えんぴつ）を１ダース買いました。２人の支払った金額が同じであったとき、弟が買った鉛筆１本の値段は何円ですか。

（4）Ａ，Ｂ，Ｃの３教室にはそれぞれ時計があります。Ａの時計は正常に動きますが、Ｂの時計は１日に１分早く動き、Ｃの時計は１日に１分遅（おそ）く動きます。2020年２月２日の午前０時に３つの時計の時刻をそろえました。次に３つの時計が同時に午前０時をしめすのは、何年何月何日かを求めなさい。

2　次の各問いに答えなさい。

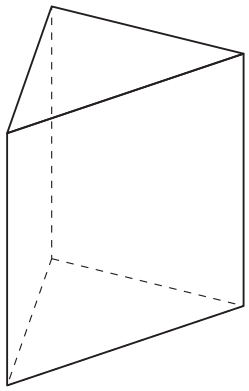
（1）　正三角形 ABC の辺 AB を三等分する点を D，E とします。同じように、辺 AC を三等分する点を I，J，辺 BC を四等分する点を F，G，H とします。このとき、斜線（しゃせん）部分の面積は正三角形 ABC の面積の何倍ですか。



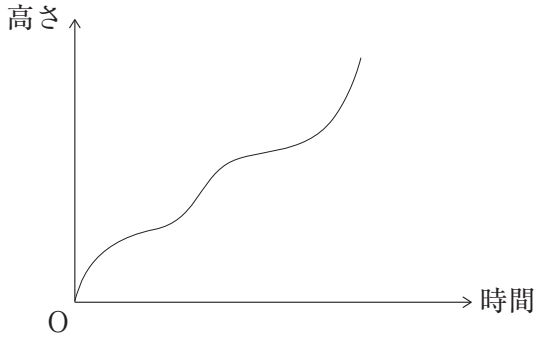
（2）　3 を 100 個かけ合わせると、一の位の数は何になりますか。

（3） A君は家から2km離(はな)れた学校に行くのに、毎朝8時に家を出て、8時24分に学校に着きます。ある日寝坊(ねぼう)をしてしまい、8時6分に家を出ました。8時24分に学校に着くためには、いつもの速さの何倍で行けばよいですか。

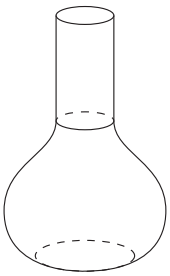
（4） 図のように、底面が正三角形の三角柱があり、2つの底面の面積の和と3つの側面の面積の和の比は3：7です。この三角柱の1つの底面の面積と1つの側面の面積の比を、この順で求めなさい。



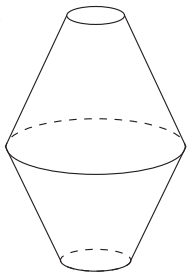
（5） 花びんに一定の速さで水を入れます。次のグラフは、時間と花びんの水面の高さの関係を表したものです。考えられる花びんの形として最も適するものを（ア）～（オ）の中から１つ選び、記号で答えなさい。



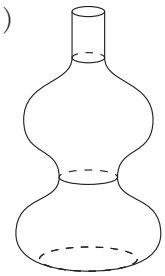
（ア）



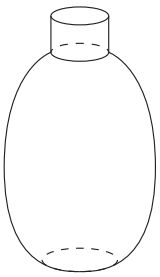
（イ）



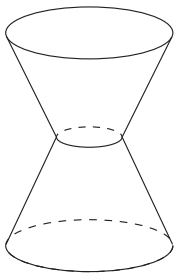
（ウ）



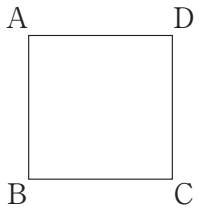
（エ）



（オ）

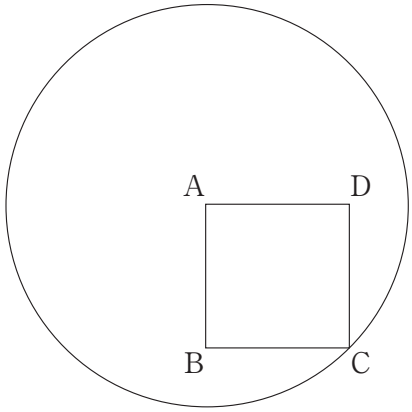


3　面積が 196 cm^2 の正方形 ABCD があります。



（1）　正方形 ABCD の一辺の長さは何 cm ですか。

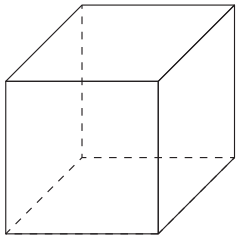
（2）　頂点 A を中心として正方形 ABCD を一回転させるとき、対角線 AC が通過する部分の面積は何 cm^2 になりますか。ただし、円周率は 3.14 とします。



（3）　頂点 A を中心として正方形 ABCD を一回転させるとき、辺 BC が通過する部分の面積は（2）で求めた面積の何倍ですか。

4　図のような立方体のすべての表面に色を塗(ぬ)ります。ただし、隣(とな)り合う面は異なる色で塗り、回転させて同じになるものは１通りと数えます。

（１）　赤、青、緑の３色すべてを使って塗る塗り方は、何通りありますか。



（２）　赤、青、緑、黄の４色すべてを使って塗る塗り方は、何通りありますか。

（３）　赤、青、緑、黄、黒の５色すべてを使って塗る塗り方は、何通りありますか。

5　Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄ，Ｅ，Ｆ，Ｇの７人がゲームを行い、得点が高い順に１位から７位の順位をつけます。結果は、以下のようになりました。

・　同じ得点の人はいなかった。
・　ＡはＢより得点が低かった。
・　ＥはＣより得点が高かった。
・　Ｇより得点が高い人は１人以上いた。
・　Ｅより得点が高い人は３人以上いた。
・　ＡとＣの間には３人いた。

（１）　Ａの順位として考えられるのは、何位ですか。すべて答えなさい。

（２）　Ｆの次の順位がＣであったとき、７人の順位で考えられるものは何通りありますか。

6　下の図１のように、点が縦も横も１cm の間隔（かんかく）で並んでいます。これらの点のうち、４つの点を選んで正方形を作ります。表２は正方形の面積（cm^2）と個数（個）の関係を表しています。表２を完成させ、解答欄（かいとうらん）にかきこみなさい。

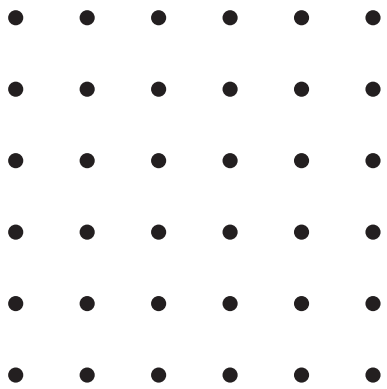


図１

面積（cm^2）	1		4			9					25
個数（個）	25										1

表２

令和２年度　入学試験（２月２日実施）算数　解答用紙

1

(1)	(2)	(3)
		円

(4)
年　　月　　日

2

(1)	(2)	(3)
倍		倍

(4)	(5)
：	

3

(1)	(2)	(3)
cm	cm^2	倍

4

(1)	(2)	(3)
通り	通り	通り

5

(1)	(2)
	通り

6

面積（cm^2）	1		4			9					25
個数（個）	25										1

受験番号	氏　　名

得　点

東京農業大学第一高等学校中等部

令和２年度　入学試験（２月２日実施）

理　科

［40分］

［注意事項］

1．試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないこと。
2．解答は、すべて解答用紙に記入すること。
3．問題は１ページ～18ページの合計18ページあります。ページが抜（ぬ）けていたら、すみやかに手を上げ、監督（かんとく）の先生に申し出ること。

東京農業大学第一高等学校中等部

1　平成の時代には、天文史を代表する、さまざまな天体現象が観測されました。また、宇宙探査機による挑戦(ちょうせん)によって、太陽系内の新たな発見がもたらされた時代でもありました。

次の図１は太陽系の星の分類を、表１は平成の天文史の一部を示したものです。これについて、後の問いに答えなさい。

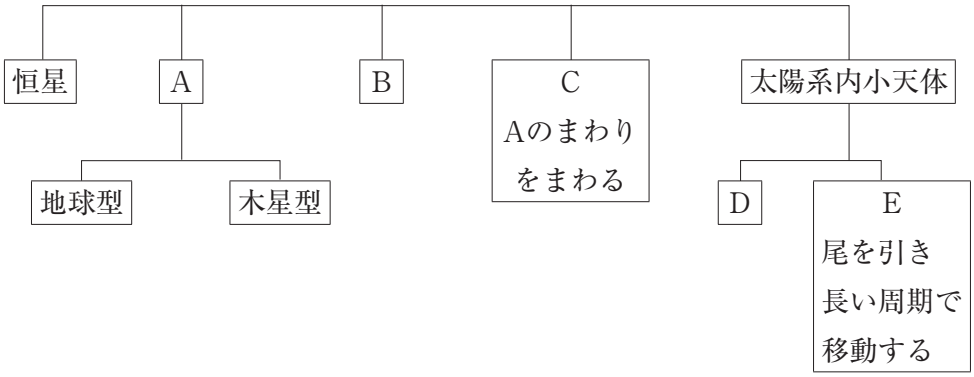


図１　太陽系の星の分類

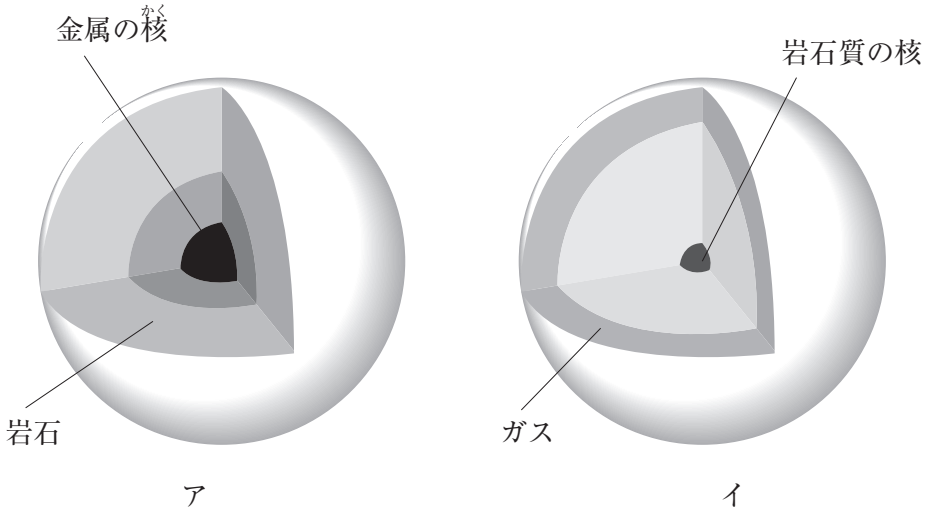
表１　平成の天文史

平成９年	(1997年)	ヘール・ボップ彗星(すいせい)が接近
平成18年	(2006年)	(X)がBに降格
平成24年	(2012年)	①金環日食(きんかん)　国内で25年ぶり
平成30年	(2018年)	平成最後の(Y)大接近
平成31年（令和元年）	(2019年)	探査機「はやぶさ２」が②小惑星(しょうわくせい)リュウグウの岩石採取

問１　図１のＡ，Ｃ，Ｅのそれぞれの名まえを答えなさい。

問２　図１のＡのうち地球型の星と、木星型の星について、以下の問いに答えなさい。

（１）　地球型の星の構造として適する図を次のア、イから選び、記号で答えなさい。



（２）　地球型の星と比べて、木星型の星の特徴として適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア．密度が低く星の大きさは小さい
イ．密度が低く星の大きさは大きい
ウ．密度が高く星の大きさは小さい
エ．密度が高く星の大きさは大きい

理科で学ぶ太陽系の星のグループ分けや所属は、変わらないものだと考えられていました。ところが平成18年に驚(おどろ)くべきニュースがありました。今までの太陽系の星のグループ分けに大きな変化が起きたのです。また、平成には、技術の進歩によって宇宙での長期滞在(たいざい)や、さまざまな星の探査などが可能になり、今までわからなかった星の姿が知られるようにもなりました。

問3　図１のAのグループの星は軌道(きどう)が同じ平面上であるのに対して、表１の平成の天文史の(X)の星の軌道は傾(かたむ)いています。この理由から(X)はAのグループからはずされ、Bのグループに入りました。(X)の星の名まえを答えなさい。

問4　下線部①の金環日食について、以下の問いに答えなさい。

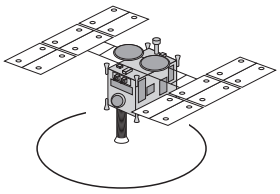
（1）　日食は地球と太陽の間に月が入ることで起こる現象ですが、それぞれの星の位置関係によって、見え方が異なります。金環日食の星の位置関係として適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

	太陽と地球と月の並び	地球からの月の距離(きょり)
ア.	一直線である	皆既(かいき)日食のときより近い
イ.	一直線である	皆既日食のときより遠い
ウ.	一直線でない	皆既日食のときより近い
エ.	一直線でない	皆既日食のときより遠い

（2）　解答用紙の円は太陽を表しています。(1)の配置をもとに、金環日食の様子を示しなさい。ただし、影(かげ)になる部分は斜線(しゃせん)で記しなさい。

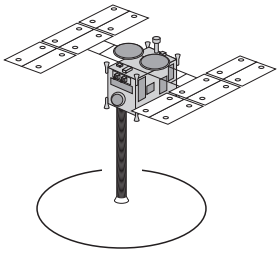
（3）　表１の(Y)は図１のAの地球型の星に属しています。(Y)の星の名まえを答えなさい。

問5　表1の下線部②の小惑星リュウグウの岩石採取の方法として適当なものを、次のア～ウから選び、記号で答えなさい。



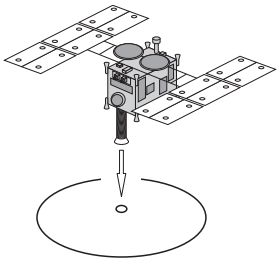
ア

地面に直接着陸して岩石を採取する



イ

地面にアームを伸ばして岩石を採取する



ウ

機体が着地した瞬間（しゅんかん）に地面に小球をあて、舞（ま）いあがった岩石を採取する

2　農大一中では毎年、夏に体験授業があります。その一場面の様子を示した次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

先生：みなさん、こんにちは。今日は光に関する実験を行います。
農太：こんにちは、よろしくお願いします。
農子：よろしくお願いします。
先生：光は空気中やガラスの中ではまっすぐに進みます。しかし、光が鏡などに当たると［あ］し、また、違う物質の中に入るときは、その境目で折れ曲がって［い］します。そのときの光の様子は図１の矢印のようになります。それでは、厚いガラスに光を当てて、光の進む向きの変わり方を調べてみましょう。

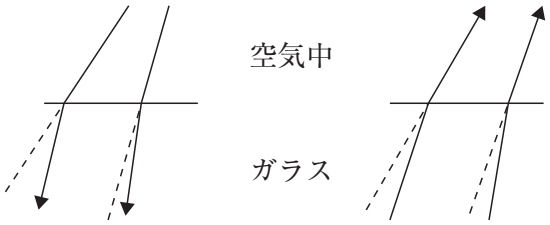


図１

問１　［あ］、［い］に入る適切な語句を答えなさい。

問２　農太くんは図２のようにガラスに光を当ててみました。空気→厚いガラス→空気と光が進んだとき、光の進み方として適当なものを図２のア～エから選び、記号で答えなさい。

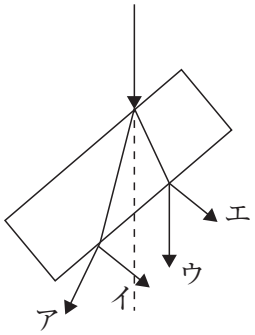


図２

農太：図２のようにガラスに光を当てると、こんなふうに光が進んでいくのですね。

先生：はい、そうです。いい発見ですね。では、次に図３のように鏡を置くとき、A点から光を当てると、光は水平に置かれた鏡のB点に45度の角度で当たってはね返り、壁のC点に当たりました。①このときの条件を、次のⅠ～Ⅲのようにいろいろと変えて実験をしてみましょう。

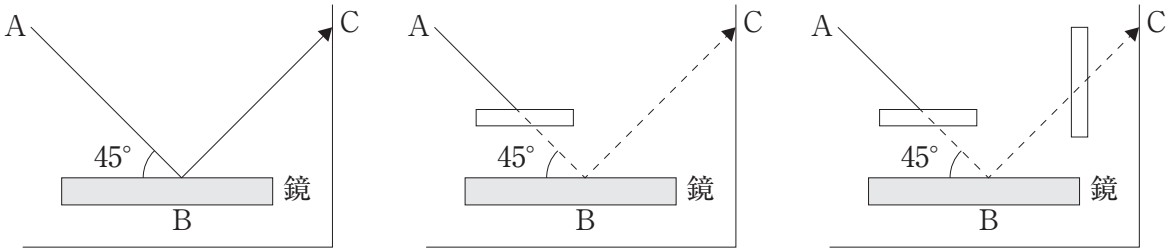


図３　　図４　　図５

※図４、５の破線は図３の光の進み方を表しています。

Ⅰ．図３で、Ｂ点を中心に鏡を時計回りに少し回転させる。

Ⅱ．図４のようにＡ点とＢ点の間に、厚いガラスを水平に差し込む。

Ⅲ．図５のようにＡ点とＢ点の間には水平に、Ｂ点とＣ点の間には鏡に対して垂直に、同じ厚さのガラスを差し込む。

問３　下線部①について、条件Ⅰ～Ⅲのとき、光の当たる位置は壁のＣ点からそれぞれどのように変わりますか。次のア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア．壁のＣ点より上に当たる。

イ．壁のＣ点より下に当たる。

ウ．当たる位置は変わらない。

農太：ぼくは、図６のように水平に置かれた厚いガラスを、Ｄ点（厚いガラスの中心の位置）を中心に少しずつ反時計回りに回転させて、光の当たる位置が壁のＣ点からどのようにずれるかを実験して調べました。

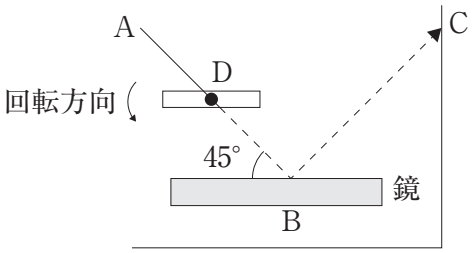


図６
※破線は、図３の光の進み方を表しています。

先生：なかなか面白そうな実験ですね。実験からわかったことを発表してみてください。

農太：はい。厚いガラスを少しずつ回転させたとき、回転させた角度が０度～［う］度の間で、壁のＣ点からのずれは［え］。そして、［う］度回転させたとき、Ｃ点からのずれは［お］。さらに［う］度～90度の間でＣ点からのずれは［か］。

問４　［う］に入る適切な数字を答えなさい。また、［え］～［か］には適当な言葉を次のア～エから記号で選び、文章を完成させなさい。

ア．だんだん大きくなりました　　イ．だんだん小さくなりました
ウ．なくなりました　　エ．最大になりました

先生：素晴らしい実験になりましたね。みなさん、ぜひ拍手をしましょう。農子さんはどんな実験をしましたか。

農子：はい。私は図７のように、Ａ点から進んできた光を水平に置かれた鏡のＢ点に30度の角度で当てました。次に、Ａ点からＢ点までの光の進み方は変えないで、Ｂ点を中心に鏡を反時計回りに５度回転させました。水平線Ｈとはね返った光の間の角度をａとすると、鏡を回転させる前と後では角度ａが［き］度変化するということがわかりました。

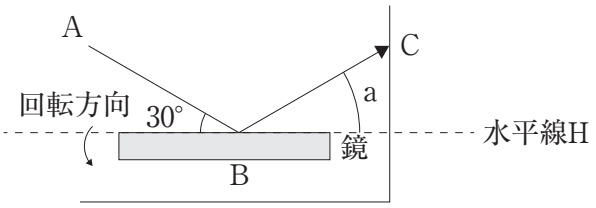


図７

先生：鏡を回転させる発想はとても素晴らしいですね。では、私からの問題を１つ考えてみてください。鏡Ａ～Ｃとスクリーンを図８のように置き、光を鏡Ａに当てました。鏡Ａからはね返った光は、図中の矢印のように鏡Ｂ，Ｃにはね返ってからスクリーンに達しました。図８中の角度ｂ，ｃはそれぞれ何度でしょうか。ただし、図８は鏡、スクリーンの位置を真上から見た図です。なお、点線は平行線です。

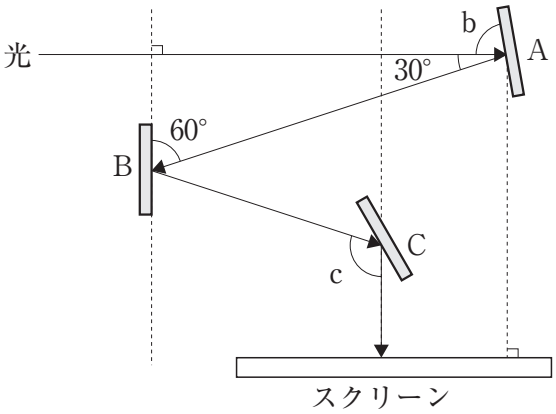


図８

農太：え～と、鏡Ａは少し斜（なな）めになっていて…。う～ん、そして角度ｃは90度よりも大きそうだから…。

農子：はい、わかりました。角度ｂは［く］度で、角度ｃは［け］度です。

問５　［き］～［け］に入る適切な数字を答えなさい。

先生：その通りです。よく理解していますね。農太くんにも説明してみてください。それでは最後の問題にいきましょう。みなさんは図９のような部屋にいると思ってください。そして、この部屋には鏡が３つあります。図９は部屋を真上からみた図です。図10のような16時で止まっている時計を、図９のＸの位置に鏡Ｄに向かって置きました。このとき、②鏡Eと鏡Fにはどんな像が映るか考えてみてください。ぜひ、お家でも実験して考えてみてくださいね。

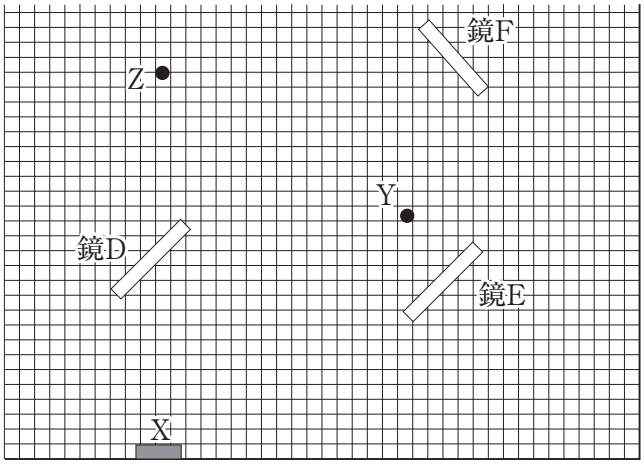


図９

図10

問６　下線部②について、Ｙの付近から見た鏡Ｅに映る時計の像とＺの付近から見た鏡Ｆに映る時計の像を次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア

イ

ウ

エ

（次のページにも問題が続きます）

3　次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

Ⅰ　７月下旬のある日、農太郎くんはお父さんと近所を散歩していると、公園の木の下に、たくさんの穴があいているのを見つけました。お父さんによると、この穴からセミの幼虫が羽化するために地中から出てきたというのです。早速、その日の夜19時頃お父さんと一緒にセミの羽化を観察するために出かけました。

昼間に穴をたくさん見つけた場所に行ってみると、昼間に見つけた穴以外に直径５mmほどの小さな穴が２個あいていました。アリの巣穴かなと思い、ライトで観察してみると、なんとそこにはセミの幼虫の顔がのぞいているではありませんか。農太郎くんは、少し時間をかけてその小さな穴からセミが出てくるのをお父さんと待つことにしました。

待つことおよそ30分、ついにセミの幼虫が出てきました（写真１）。まずは頭を出し、しばらくしてからすっと外に出てきました。じっと見ていると木の幹の方に歩き出しました。もうひとつの穴からもすぐに出てきて木の幹の方に歩き出しました。

それからおよそ１時間、２匹のセミの幼虫は歩き続け、ついに歩かなくなりました。そして20時30分に幼虫の背中が割れて新しい成虫の体が出てきました（写真２）。いよいよ羽化が始まったのです。まずは頭を出し、20時41分ついに体の上半身が完全に出ました。20時43分、体のほとんどの部分が出てきました。農太郎くんがよく観察してみると、白い糸がセミの腹部のあたりにありました（写真３）。お父さんによると、この白い糸は幼虫の時期に空気を取り入れる穴につながっているのだそうです。

写真１

写真２

写真３

20時51分、風が吹いてきました。セミの体はのけぞっていて、時々風でゆらゆら動いてしまいます(写真４)。もう少しで落ちてしまいそうです。成虫のあしは全部外に出てしまっていて、体を支えているのは、抜けがらのあしだけなのです。そこには筋肉があるわけでもなく、ただ抜けがらのあしだけで体を支えているのです。農太郎くんは、セミの羽化がうまくいくように祈りながら観察を続けました。

21時ちょうど、ついにセミは起き上がり抜けがらにつかまりました。農太郎くんはほっとしました。21時13分、羽がしっかりと伸びてきました。

お父さんは、羽化してしばらく時間がたった体を見て、このセミがアブラゼミであることを教えてくれました。

写真４

問１　セミの羽化で、幼虫の背中が割れてから、羽がしっかり伸びてくるまでにかかった時間は何分ですか。

問２　下線部の昆虫が空気を取り入れる穴を何といいますか。

問３　セミの複眼と複眼の間の中央には、３つの点があります。この３つの点を使ってセミは何を感知していますか。次のア～オより選び、記号で答えなさい。

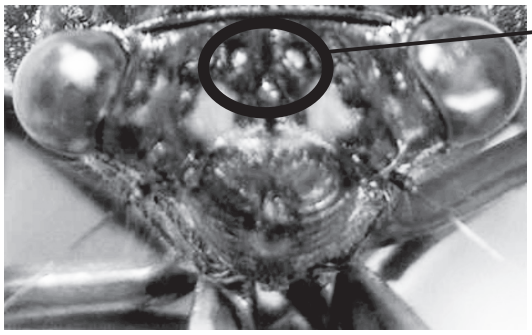


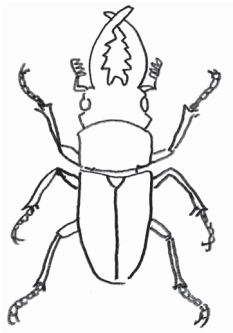
写真５

ア．におい　　イ．音　　ウ．明るさ　　エ．温度　　オ．味

問 4　昆虫の育ち方には、種類によって違いがあります。セミのように、さなぎになることがなく羽化して成虫になるような育ち方を何といいますか。漢字５文字で答えなさい。またセミと同じように、さなぎになることがなく羽化する昆虫を、次のア～オからすべて選び、記号で答えなさい。

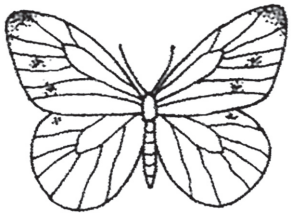
ア．コオロギ　　イ．カブトムシ　　ウ．ミツバチ
エ．モンシロチョウ　　オ．オオカマキリ

問 5　昆虫の羽には、様々な羽があります。下の図は農太郎くんが描（か）いた昆虫の絵です。絵で描いた昆虫を、羽の特徴で①～⑤のグループに分けました。アブラゼミは③のグループに入ります。どのような特徴でアブラゼミを③に分けたのか、次のア～オから選び、記号で答えなさい。


①ノコギリクワガタ

②オニヤンマ

③スズメバチ


④モンシロチョウ

⑤ハナアブ

ア．羽は閉じることがなく、開いたままである。
イ．前羽は、かたく、折りたたまれた後ろ羽を守っている。
ウ．後ろ羽はなく、前羽だけが２枚ある。
エ．前羽は、後ろ羽より大きい。
オ．羽には、りん粉がある。

Ⅱ　農太郎くんは、セミの羽化を観察したときに、１つ気になったことがありました。それは、セミの抜けがらが、成虫が抜け出た後なので筋肉がないはずなのに、成虫の羽化が終了するまで落ちたりせずにセミを支えていたことです(写真６)。

農太郎くんは、セミの抜けがらは、どれくらいの重さまで支えることが出来るのか知りたいと思い、次のような実験を行いました。

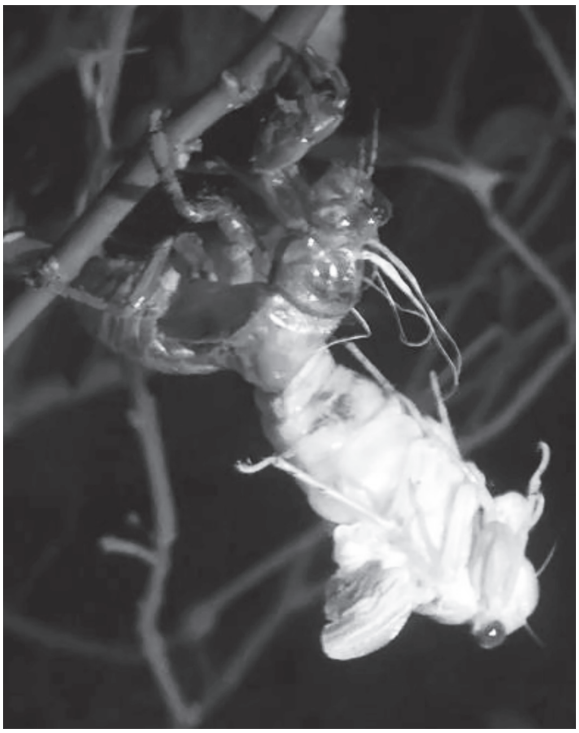


写真６

【目的】セミの抜けがらが、どれぐらいの重さまで支えることができるのかを明らかにする。

【方法】10個のセミの抜けがらに、写真７のようにおもりとして輪ゴムをかけていき、セミの抜けがらが落ちたときの、輪ゴムの重さをはかった。

写真７

【結果】以下の表１のようになり、抜けがらが落ちた時のおもりの重さの平均は34.52gでした。

表１

抜けがらの番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
抜けがらが落ちた時のおもりの重さ[g]	40.8	31.4	30.1	30.7	39.7	32.3	34.1	36.8	30.8	38.5

農太郎くんは、セミの抜けがらがセミの体重の何倍まで支えることができるか調べるために、羽化する前の幼虫の体重を調べてみたところ、結果は表２のようになりました。ただし、表１のセミの抜けがらの番号と表２の幼虫の番号は同じ個体を示すものではありません。

表２

幼虫の番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
体重[g]	2.4	2.5	3.1	2.7	2.9	3.5	3.2	3.0	3.0	2.7

問６　以下の問いに答えなさい。

（１）　幼虫の体重の平均は何gですか。

（２）　表１、表２の結果から、セミの抜けがらは体重のおよそ何倍まで支えることができるとわかりますか。小数第１位を四捨五入して整数で答えなさい。

Ⅲ　セミは種類によって、成虫の出現する時期が異なります。時期ごとに見つかる抜けがらの数を調べることで、成虫の出現する数を明らかにできます。次のページのグラフは、７月１日から９月20日のそれぞれの時期に、東京のある地域でのアブラゼミ、ニイニイゼミ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミの抜けがらが見つかった数を示しています。なお、一度見つけた抜けがらは必ず回収したものとします。

問７　次の文章のうち、正しいものをア～オから選び、記号で答えなさい。

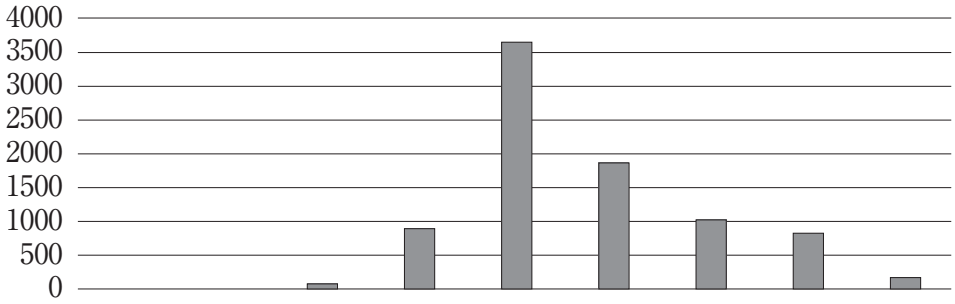
ア．アブラゼミが最も多く羽化する時期は、ツクツクボウシが最も多く羽化する時期より遅い。

イ．ツクツクボウシが最も多く羽化する時期は、ニイニイゼミが最も多く羽化する時期より遅い。

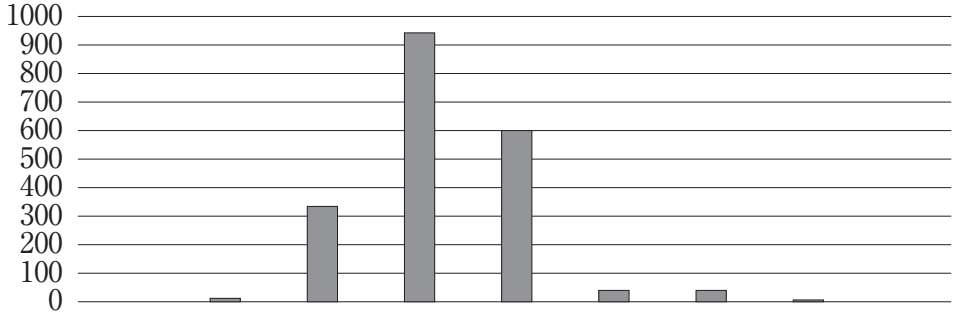
ウ．ツクツクボウシが最も多く羽化する時期は、ミンミンゼミが最も多く羽化する時期より早い。

エ．抜けがらが、調査期間中に毎回観察されたのは、ニイニイゼミである。

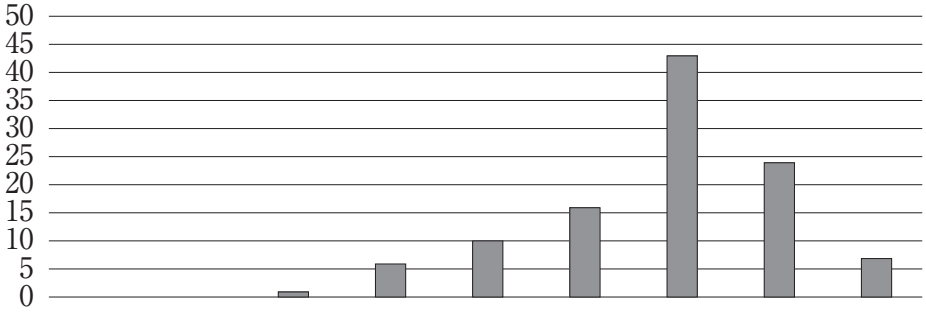
オ．抜けがらの数が最も多く見つかったのは、ミンミンゼミである。



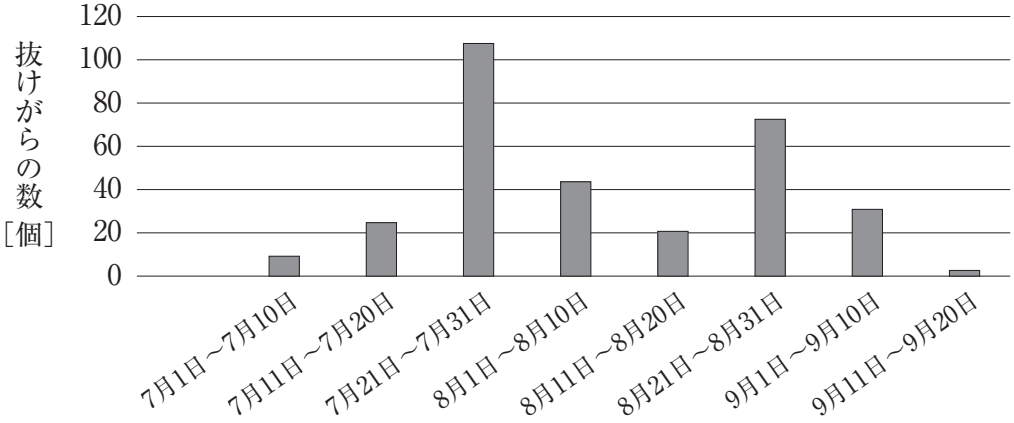
アブラゼミ



ニイニイゼミ



ツクツクボウシ



ミンミンゼミ

4 **水に氷(固体)、水(液体)、水蒸気(気体)があるように、物質には3つの状態があります。**

私たちの生活に身近な空気は、何種類かの気体が混じりあっており、水蒸気を除いた空気中に含(ふく)まれる気体は、割合の多いものから順に、[あ]、[い]、アルゴン、[う] です。気体に関する後の問いに答えなさい。

問1 [あ] ～ [う] に入る最も適当な語句を答えなさい。

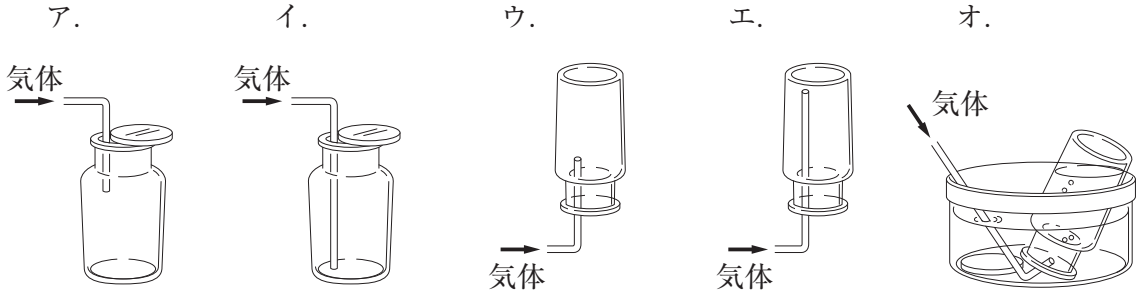
問2 次の①～③の記述に当てはまる気体をア～キからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

① 助燃性がある。
② 塩化アンモニウムと水酸化カルシウムを混ぜて加熱すると発生する。
③ 色がある。

ア．塩素　イ．二酸化炭素　ウ．塩化水素　エ．アンモニア
オ．ちっ素　カ．酸素　キ．水素

問3 例を参考にして、酸素と二酸化炭素のつくり方をそれぞれ答えなさい。ただし、光合成、呼吸は不可とします。
例：塩化アンモニウムと水酸化カルシウムを反応させる

問4 アンモニアを集気びんに集める方法として最も適当なものを、次のア～オから選び、記号で答えなさい。



問5 銅と薄(うす)いしょう酸を反応させると、気体Aが発生します。気体Aは空気より少し重く、水に溶(と)けにくい性質を持っています。また、気体Aは空気とふれると気体Bに変化するという性質も持っています。純粋(じゅんすい)な気体Aを捕集(ほしゅう)する方法として**適当ではないもの**をア～ウからすべて選び、記号で答えなさい。

ア．下方置換(ちかん)　イ．上方置換　ウ．水上置換

固体や液体、気体の物質を水に溶かすと水溶液(すいようえき)ができます。たとえば、食塩を水に溶かすと食塩水、さく酸を水に溶かすとさく酸水溶液、二酸化炭素を水に溶かすと炭酸水ができます。

炭酸水の容器の栓(せん)を開けると、溶けていた二酸化炭素の泡(あわ)が出てきます。これは、水に二酸化炭素を溶かしたときに加えた圧力に比べて、大気中の二酸化炭素の圧力が小さいことにより起こります。

このように圧力が小さいと気体の溶解度(ようかいど)(水に溶ける気体の重さ)は小さくなり、圧力が大きいと気体の溶解度は大きくなります。一般(いっぱん)に、液体に溶ける気体の重さと圧力には比例関係が成り立ちます。

また、溶かす水の量が少ないと気体の溶解度は小さくなり、溶かす水の量が多いと気体の溶解度は大きくなります。一般に、液体に溶ける気体の重さと溶かす水の量には比例関係が成り立ちます。

以下の表は、各温度において、１気圧のときに10Lの水に溶ける気体の重さを表わしたものです。

表

気体／温度	水素	酸素	二酸化炭素
A［℃］	0.02g	0.70g	34g
20［℃］	0.016g	0.45g	17g
B［℃］	0.015g	0.33g	10g

問６　表中のＡにあてはまる数値として適当なものを次のア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア．０　　イ．40　　ウ．60

問７　20℃、５気圧で酸素が水に接しているとき、1000Lの水に溶けている酸素の重さは何gですか。

問８　Ａ［℃］、３気圧で二酸化炭素が水に接しているとき、100Lの水に溶けている二酸化炭素の濃度(のうど)は何％になりますか。小数第３位を四捨五入して、小数第２位まで答えなさい。ただし、水は１Ｌあたり1000gとします。

令和２年度　入学試験（２月２日実施）理科　解答用紙

1

問1	A	C	E		
問2	(1)	(2)	問3		
問4	(1)	(2)	(3)		
問5					

2

問1	あ	い	問2		
問3	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
問4	う	え	お	か	
問5	き	く	け		
問6	Y	Z			

3

問1	分	問2		問3	
問4		昆虫	問5		
問6	(1) g	(2) 倍	問7		

4

問1	あ	い	う	
問2	①	②	③	
問3	酸素			
	二酸化炭素			
問4		問5		
問6		問7	g	問8 %

受験番号	氏　　名

得　点

東京農業大学第一高等学校中等部

令和２年度　入学試験（２月２日実施）

国　語

［40分］

［注意事項］

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないでください。
2. 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
3. 問題は１ページ～14ページの合計14ページあります。
   ページが抜(ぬ)けていたら、すみやかに手を上げ、監督(かんとく)の先生に申し出てください。
4. 解答の際、句読点、括弧(かっこ)などの記号は字数に含(ふく)むものとします。

東京農業大学第一高等学校中等部

一　次の①～④の傍線部のカタカナを漢字に直し、⑤～⑧の傍線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また、送り仮名が必要な場合は送り仮名を付しなさい。

① 親しい友であってもケイショウを付けて呼ぶべきだ。
② 税務署に保険料をオサメル。
③ 祭りで神輿をカツグ。
④ メンミツに打ち合わせをする必要性がある。
⑤ 引退した選手が今後の去就を述べる。
⑥ 暑いので、木陰で休むことにした。
⑦ ライバルの言葉に発奮して勉強する。
⑧ 大事な仕事に人員を割く。

二　次の文章は、洞窟壁画を描いたクロマニョン人について述べたものです。後の問に答えなさい。（設問の都合上、本文を一部省略してあります）

壁にあるひび割れの線、洞窟の壁面や天井の凹凸、そういうものにイメージの断片を見出して、それに導かれるように絵を描き、イメージを完成させていった。そして残されたのが、クロマニョン人による先史時代の洞窟壁画です。では、クロマニョン人のどのような能力が、絵画を生み出す力になったのでしょうか。

ここで「星座」というものを、そのヒントとして考えたいと思います。夜空には、星々による無数の点々が散りばめられています。星座は、その点と点を結び、線とし、その線が作り出す形を、動物などの形をした星座として見出すものです。ですから、[1]星々はヒトが見ようと見まいと、ずっと昔からありました。しかし星座は、星と違って、ヒトがそこに見出したものなのです。

この星座は、いったい、いつ頃から見出されたか。奈良の古墳の壁画にはすでに星座が描かれていますが、そのずっと前、古代メソポタミアや古代インド、中国にも、星座への眼差しを見ることができます。

クロマニョン人が、岩壁の凹凸やひび割れに、絵画の元となるイメージを見出したことから、同じく星々の濃淡の模様や、その点と点が結ぶことで現れる形の断片に、星座を作る能力があったことは確かです。それは古代の神話へとつながる物語を伴ったものであったのか、あるいは単に動物などの形を見出したものなのか、それはわかりません。しかしクロマニョン人が見た星空に、[2]原・星座のような光景があったであろうことは、十分に予想ができます。

そんなことを考え始めたのは、恩師・養老孟司（ようろうたけし）先生との会話が始まりでした。場所は、東京大学の解剖学教室だったので、もう四半世紀も昔のことです。たぶん『唯脳論』（青土社、一九八九年）という本を出した前後の頃だったと思います。養老先生は、こんなことを話して

いました。

「クロマニョン人以降、ヒトの脳は変わっていない。ならば、クロマニョン人も、現代の我々も、その能力は同じはずだ」

そのときに話していたのは、聴覚言語と視覚言語の話でした。

「現代の我々には、話し言葉と書き言葉がある。その言語を操作する能力がある。もしクロマニョン人がそれと同じ能力を使っていなかったら、脳は別のものへと退化していたはずだ」

養老先生は、そこに「星座」の役割を見出だしていました。

① ② ③ ④

「文字ができるずっと前から、星々の星座に、神話の原型となるような物語を見て、その星座のビジュアルイメージを見て・読み解く能力の中に、文字を扱う脳の部位は準備された」

養老先生は、そんなことを話された。まず言語とは何かといえば、脳の中での「視覚と聴覚の変換」であると養老先生は考えていました。だから目で見た文字を、音である声に変換することができる。また音である声を聞いて、それを文字として記録することができる。視覚（光）と、聴覚（音）は、物理的にはまったく別のものです。それを「同じ」ものとして変換できる、それが言語というものの本質だというのです。

ネアンデルタール人は、歌うことでコミュニケーションをしました。しかし、それを文字という視覚情報に変換できなかった。しかしクロマニョン人は、その脳の可能性を使って、星座という光（視覚）を、神話の物語という音（聴覚）に変換した。［A］、ネアンデルタール人が暮らす大地には、歌声が満ちていたとしたら、クロマニョン人が暮らす大地には、神話を語る言葉が満ちていた。焚き火を前にして、夜空を見上げながら、クロマニョン人は星座を眺め、物語を語り合ったのでしょうか。

[3]養老先生のこの考えは、四半世紀を経たいまも、一貫しています。近著『遺言。』（新潮社）において、猫とヒトの違いを論じていますが、ヒトの能力の特徴は、違うものを「同じ」と認識できることにあると言います。この話は、鎌倉にある養老先生のご自宅を訪ねたとき、書斎でのおしゃべりでも聞かされました。机の下には、先生の愛する猫であるマルがいて、その猫を指差しながら、「猫は」と語りました。

……猫は、先生が口にする「マル」という音と、奥さんがいう「マル」という音は別のもの

だと認識しているに違いない。猫には、絶対音感がある。だから先生の声と、奥さんの声は、別のものと認識する。すると、同じマルという言葉なのに、それを「同じ」ものとは認識できない。[4]ヒトだけが、音質の違う「マル」という言葉を、「同じ」ものとして認識する。

B 、その猫とヒトの違いは、進化の歴史のなかで、いつ生じたのでしょうか？　猫とヒトの間には、猿がいる。いまはもう絶滅したが、アウストラロピテクスやネアンデルタール人もいる。その境界は、どこにあるのでしょうか。

養老先生と話していると、時々「我々は」と言います。先生に、「その『我々は』の範囲は、どこまでなのですか」と訊いたことがあります。つまり会話をしている現場にいる人間に限定した「我々」なのか、それとも日本人なのか、あるいはいま地球にいる世界中の全人類なのか。

先生の答えは、「 X 」ということでした。ですので、養老先生と議論をしていて、先生が「我々」と言ったときは、すでに亡くなった先祖や、古代文明の人々や、縄文人や、そして先史時代のクロマニョン人までも含みます！　国境を越えて手を取り合おうなどという観点をはるかに超えた、超・博愛です。この本は、先史時代のヒトが初めて描いて以降の絵画の、すべての時代を視野に収めた内容であることを目指していますが、それは養老先生が仰る「我々」と、ぴったり重なるものであるのです。

認知考古学者のスティーヴン・ミズンは、ネアンデルタール人は、我々よりも大きな脳を持っていたのに、なぜ言語がなく、象徴思考もなかったのかということを、こう説明します。

（ネアンデルタール人は、ムスティエ文化と呼ばれる、石器の製作をしました。しかし）ネアンデルタールは道具作りの技術を応用して[5]社会関係を円滑にする人工物を製作することはできなかった。

スティーヴン・ミズン『歌うネアンデルタール』早川書房

なぜか。大きな脳を持っていたのに、なぜそれができなかったのか。

足りなかったのは、[6]それぞれの領域を結びつける補足的な神経回路だけで、この回路はほとんど脳容量を必要としなかったのかもしれない。

（同）

そしてネアンデルタール人より脳が小さい、クロマニョン人や「我々」には、その「それぞれの領域を結びつける神経回路」がある、というわけです。養老先生の言葉で言えば、猫の「マル」という言葉はだれが言っても、どんな声音で言っても、同じマルであるという、その「同じ」という能力です。

この「同じ」という能力は、絵画というものにも当てはまります。クマやシカの絵は、それは岩壁にこすりつけた炭や、赤い岩の粉にすぎません。しかし「我々は」、そこに現実のクマやシカと「同じ」ものを見るのです。それができたとき、絵画が誕生しました。

スティーヴン・ミズンは、こうも書きます。

言語が発達しなかったのなら、ネアンデルタールは生まれつき持っていただろう[7]絶対音感の能力を維持したまま成長した可能性が高く……。

（同）

なぜ、ネアンデルタール人は、絶対音感の能力があったのか？　なぜネアンデルタール人は、言語を使えなかったのか？　なぜネアンデルタール人は絵画を描けなかったのか？

すべては、同じ理由から起こっていることなのです。

（布施英利『洞窟壁画を旅して』による）

問一　空欄 A ・ B に入る語句として、最もふさわしいものを次のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　それでも　　イ　では　　ウ　つまり　　エ　一方

問二　傍線部1「星々はヒトが見ようと見まいと、ずっと昔からありました。しかし星座は、星と違って、ヒトがそこに見出したものなのです」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア　星々は地球ができた瞬間から存在しており、そうした星々のさまざまな形に対して、ヒトが星座の形を見出し、物語化してきたということ。

イ　星空はヒトの認識が始まったときから存在してきたが、その認識が次第に深まり、星の散らばりから規則性を見出し、星座を作りだしたということ。

ウ　星空はヒトが存在するはるか以前からあったが、ヒトがそこにさまざまな形を見出し、神話と結びつけることで星座として発見したということ。

エ　星々はヒトの認識が始まる以前からあったが、そうした星々の無造作な散らばりからヒトが形を見出し、星座を作りだしたということ。

オ　星々は遠い昔から存在してきたが、ヒトがさまざまな動物や形を信仰するようになったことで、星座として認識するようになったということ。

問三　傍線部2「原・星座のような光景」とありますが、どういう光景のことですか。最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア　大草原のような広大さをもつ星空の光景。

イ　現代に見られる星空よりもさらに美しい光景。

ウ　いま見られる星座のもととなるような光景。

エ　原始時代からいまに続く美しい星空の光景。

オ　星座と呼ばれる以前の無数の星が散らばる光景。

問四 本文中の空欄 ① ～ ④ には、次のア～エの文章が入ります。適切な順序に並び替え、それぞれ記号で答えなさい。

ア だとしたら、脳の視覚言語を扱う領域はなくなってしまうだろう。

イ つまり、クロマニョン人には、会話をする能力(聴覚言語)はあっただろうが、文字（視覚言語）はなかった。

ウ そして文字が誕生した後のために、どうやって、その領域を保ってきたか？

エ では、どうやって、その領域を保持したか。

問五 傍線部3「養老先生のこの考え」とありますが、どういう考えのことですか。三十五字以内で説明しなさい。

問六 傍線部4「ヒトだけが、音質の違う「マル」という言葉を、「同じ」ものとして認識する」とありますが、なぜこのような認識をすることができるのですか。その理由として最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア ヒトにはさまざまな声を音として細かく聞き分ける能力があり、それに基づき「マル」という言葉を同一のものとして認識するから。

イ ヒトは音質が多少異なっていても、そこに共通性を見つけ出すことで、見た目が異なるものでも同じものとして分類することができるから。

ウ ヒトは、細かい音の違いがあったとしてもそれに気づく能力がないため、結果的に「マル」という言葉を同じものとして理解するから。

エ ヒトは、絶対音感を持たない人の割合が多く、ネコのように音の違いを聞き分けることができないが、視覚という別の感覚を使って認識するから。

オ ヒトはネコのように微妙な音の違いを認識することはできないが、「マル」という言葉の共通性から、同一のものと判断するから。

問七 空欄 X に入る文を一つ選び、記号で答えなさい。

ア ネアンデルタール人以降だ。

イ 古代文明の人々以降だ。

ウ 縄文時代以降の全人類だ。

エ クロマニョン人以降だ。

オ 先史時代の猿人以降だ。

問八 傍線部5「社会関係を円滑にする人工物」とありますが、どういう力を指していますか。ふさわしいものを次のア～オの中から**すべて選び**、記号で答えなさい。

ア　周りのひとを束ねる力
イ　音の細かい違いに気が付く力
ウ　物事の共通点を発見する力
エ　言語でコミュニケーションする力
オ　音程を外さずに歌う力

問九 傍線部6「それぞれの領域を結びつける補足的な神経回路」とありますが、どういうものですか。最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア　猫を呼ぶ声が、それぞれ別の人物と判断する力。
イ　岩壁に描かれた炭や粉から動物の絵を見出す力。
ウ　歌を歌うことでコミュニケーションをとる力。
エ　先史時代の生活を想像し、考察する力。
オ　抽象的な理論から具体的な経験につなげる力。

問十 傍線部7「絶対音感の能力を維持したまま成長した可能性が高く…」とありますが、「…」以降について述べている内容として推論できるものを次のア～オの中から**すべて選び**、記号で答えなさい。

ア　ネアンデルタール人を祖先にもつことになった私たちは、会話ではなく、歌うことでコミュニケーションを取っていたのではないか。
イ　クロマニョン人は戦闘によって滅ぼされ、私たちの先祖はネアンデルタール人となっていたのではないか。
ウ　ネアンデルタール人は物事を抽象的に捉える能力を身につけ、絵画を描いていたのではないか。
エ　ネアンデルタール人は歌うことでクロマニョン人との間に関係を築き、新しい力を開花させていたのではないか。
オ　言語を扱うことができないネアンデルタール人は、洞窟壁画を描くことはできなかったのではないか。

問十一　本文の内容に合致するものを次のア～カの中から**すべて選び**、記号で答えなさい。

ア　ヒトが星座を見出した能力は、異なる二つのものから共通性を発見する力と同じものである。

イ　養老先生の考えに従えば、ネアンデルタール人とクロマニョン人の間には、「視覚と聴覚の変換」の力に差があったと考えられる。

ウ　言語の有している本質的なはたらきとは、物に名前をつけて区別することにあると言える。

エ　ネアンデルタール人が洞窟壁画を描けなかった主因は、部族同士のコミュニケーション不足にあったと言える。

オ　クロマニョン人の描く洞窟壁画は、言葉を操ったり、物事を抽象的に考えたりする力によって生み出された。

カ　ネアンデルタール人に足りなかったものは社会関係を円滑に営むための言語を用いたコミュニケーション能力である。

三　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。（設問の都合上、本文を一部省略してあります）

みんなは、ビクトル・ユーゴーって知っていますか？『レ・ミゼラブル』（『ああ無情』）っていう長編小説で有名な、一九世紀フランスの文豪であり、政治家でもあった人です。『レ・ミゼラブル』の小説は読んだことがなくても、ミュージカルやアニメにもなっているから、だいたいのお話は知っているんじゃないかな。

そのユーゴーに、もうひとつ『ノートルダム・ド・パリ』という、一五世紀のパリを舞台にした有名な長編小説があります。日本では『ノートルダムのせむし男』という題でも知られていて、こちらもミュージカルや映画、ディズニー・アニメ（『ノートルダムの鐘』）になっています。

この作品のなかに、「コレがアレを殺す」っていう不思議なタイトルの章があります。そしてその前後には、ノートルダム寺院の副司教を務めるクロード・フロロという人物が、ニュルンベルクで印刷されたばかりのグーテンベルクの活字本とノートルダム寺院の石の[※1]大伽藍（だいがらん）とを見比べながら、「コレがアレを殺すことになろう」って、①メランコリックにつぶやく有名な場面が描かれています。

彼が言おうとしたのは、「コレ」―当時グーテンベルクが発明したばかりの活字本が、「アレ」―中世の信仰の世界を支えてきた「石の書物」とも言うべきノートルダム寺院を殺すことになる、ということです。つまり、それまで教会に代表される石の建造物によって支えられていた信仰の中世が終わって、[※2]活版（かっぱん）印刷術によって多くの人が手にすることが可能になった本がつくり出す近代文明がはじまる―そういう文明の交代を象徴的に表現しているシーンだという

わけですね。

そして彼がメランコリックだったのは、それが、彼の属する[1]聖職者たちの世界の崩壊を意味するからです。それまでは、聖書者たちが、本（[※3]写本（しゃほん））を読み、字の読めない民衆を導いてきた。しかし、活版による印刷技術の登場によって、誰もが聖書や本を読み、知識を得る可能性が開けてきたんだ。

僕たちが考えてきたアナログ・メディア革命、あるいはその次にやってきたデジタル・メディア革命というのは、おそらくグーテンベルクの活版印刷術がもたらした革命に匹敵（ひってき）する、あるいはそれ以上のものです。つまり、中世が近代に変わるくらいの変化を文明に引き起こしつつあるということだね。

そして、そうした変化が起きようとするとき、『ノートルダム・ド・パリ』の副司教のように、それに対して[2]後ろ向きの態度をとる人が出てきます。これは自戒の念を込めて言うのだけど、それはたいてい、僕のような東大の先生だったり、この本を出版しようとしている岩波書店のようなインテリ向けの出版社やその読者だったり、ときには君たちの通う学校の先生だったり、もしかして君たちの教育熱心で学歴の高い親御さんだったり、そして、きっと、『モモ』を書いた作者のエンデのような人たちなんだ。

なぜなら、彼ら知識人というのは—僕も一応そのはしくれなんだけど—、「活字文化」の人だからです。現代のこのメディア革命の時代のなかにあって、彼らは、『ノートルダム・ド・パリ』のなかの聖職者にたとえられる存在だ。

「現代の僧侶」である知識人たちは、コレがアレを殺すんじゃないか、という危惧を抱いている。つまり、

X

そこにはもちろん、映画やテレビやアニメやネットのような「テクノロジーの文字」がつくるようなものよりも、[3]活字文化のほうがレベルが高い、という前提がある。だからネットやケータイに夢中になるやつはおかしいんじゃないかとか、テレビばっかり見てるやつはダメなんじゃないかとか、思いがちなわけですね。

では、彼らの考えは、時代遅れで間違ったものなんだろうか。

彼らが本を重視するのは、本は人間を自由にする、より高度な本を読むほどより自由に考える力をもつ人間になれる、と考えているからです。そして、僕の考えでは、それは、本当なんだ。

（中略）

夏目漱石を読んでいて、なにか知らないことばに出会ったとしよう。たとえば仮に「花」だとする。実際は、もっと難しいことばだろうから、最初は辞書を引く必要があるかもしれない。でも僕たちは、一度「花」という新しいことばを覚えれば、夏目漱石のその作品がよりよく読めるようになるだけじゃなく、次に漱石の別の作品や森鴎外や志賀直哉に、「花」ということばが出てきたとしてもその意味を理解できるようになる。つまり、一般的な「読解能力」がアップしたということだ。

それだけじゃなく、「花」ということばを使って文章を作って自分の考えを表現したり、「花」という概念をめぐって考えてみることもできるようになります。だから、「読む」力というのは、ことばを通して、「書く」力や「考える」力につながっているんだ。

なぜそんなことが可能なのかというと、ことばというのが、ただひとつの具体的なものを指すのではなくて、抽象的なものを表すものだからだ。「花」ということばは、バラもユリもチューリップもすべて、その意味のなかに含んでいます。それだけじゃなく、実際にそこに咲いているバラや、あっちに活けてあるユリも、「花」ということばで表すことができます。

（中略）

本を読んで、自由に使いこなせることばの数や表現の種類を増やしていけば、思考する力や世界を理解する力を高めることができる、という考え方には、だから十分な理由があると僕は思う。そういう意味で、「[4]文学が人間を自由にする」というのは正しい、と考えているんだ。

そういうわけで、いくらメディアが発達しても、人間の思考を根底でサポートする「ことば」と結びついた文字の文化が廃(すた)れるということはない、と僕は確信している。実際、新しいメディアのなかでも、ツイッターだってメールだって文字で書かれている。

だけど、一方で、アナログ革命から一〇〇年以上経って、デジタル革命も進んでいる現在、本当にいままでどおりの文字文化でいいのか、という問題が生じているんだよ。

実際、活字文化に属する知識人たちは、いまピンチに陥っています。なぜかと言うと、ひとつには、彼らが読んだり書いたりするような難しい本を読む人の数は少なくなっていて、テレビに出ているタレントなんかに比べても、彼らの声はずっと届きにくくなっているからです。それは、[5]いわゆる知識人と大衆の乖離(かいり)という問題だね。

でも、僕の考えでは、知識人がピンチになっている本当の理由は、数の問題とか、人びとが大衆化しているとかいうことのほうにあるのじゃなくて、テクノロジーの文字の出現によって、活字文化が独占的にもっていた力を失いつつあるからだと思うんだ。

さっき説明した文字の力というのは、実は、三段論法でできています。その一は、「この世のあらゆることがらは文字で表すことができる」。その二は、「文字で表せるものは意識化できる」。そして、その三は、「だから、この世のあらゆることがらは、意識化できる」ということなんだ。植物の上のほうでひらひらしているカラフルなものは「花」と名付けることができる。そしてそれは「花」というものとして意識される。この文字による意識化のサイクル、それを「知のサイクル」と呼んでもいいけれど、それが、本の文化、活字の文化を成り立たせてきました。だから文字の勉強だけして、本を読んでいれば、それだけでよかったんだ。

だけど、世の中のことを表すものとして、従来の文字だけじゃなく、テクノロジーの文字というものが出現してきた。しかもそれは、これまでの文字と違って、人間の意識にのぼらないものだという。

（中略）

そう考えると、ますます多くのものが、テクノロジーの文字という、これまでとは違うしくみをもった文字で書かれるようになっている。以前のように、世の中のあらゆるものがそれま

での文字で表されるわけではなくなったんだ。このテクノロジーの文字をきちんと理解できなければ、世の中のことの半分もわからないのかもしれない。だから、知識人たちがピンチに陥っているのは、彼らに、このテクノロジーの文字を読み書きする力がないからだと僕は思っているんです。

（中略）

いまでは、読み書きができるのは当たり前のことになってしまったけど、一九世紀のはじめには、日本でもヨーロッパでも、読み書きができない大人は大勢いたんだよ。みんなが通っている「学校」という制度は、もともと、社会のすべての人びとが、「読み書き」ができるようにしようということを目的につくり出されたものなんです。みんなが自由にものを考えたり、表現したりする力を増すことにつながるからだね。いまでは、その意義を忘れかけてしまっているみたいだけれど、もともと学校は人びとを自由にするための社会のしくみなんだ。

そして、みんなが読み書きする力をもち、自分の精神の力を発揮して、自由を実現していこうという思想を、「[※4]啓蒙思想」と言います。歴史の時間に習ったと思うけど、ヨーロッパだと、ルソーやヴォルテールなどの「百科全書派」と呼ばれる人たち、日本だと明治の思想家の、福沢諭吉や中江兆民（なかえちょうみん）といった人たちだよね。そしてその延長上につくられているのが、近代民主主義だ。自分たちのことは自分たちで考えて決めていこうっていうしくみだからね。そう考えると、文学の力はけっしてあなどれない。

だからこそ、新しい「テクノロジーの文字」についても、僕たちがこれまでの文字について身につけてきたような「[②]リテラシー」が必要なんだ。それは今さかんに言われている「メディア・リテラシー」という問題というわけです。もしかしてそういう意味で「啓蒙」が必要なのは、知識人なのかもしれない。

でも知識人よりずっとうまくメディアを使いこなしている君たちも、新しいリテラシーをもっとみがく必要があると思う。

（中略）

[6]新しいテクノロジーの文字を本当に「読み書き」することができるようになって、はじめて僕たちは新しい「自由」を手に入れることができる。「テクノロジーの文字」を使って、じっくりと物事を考えたり、想像を広げていくことができるようになるはずなんだ。そのためには、いったいどうしたらいいんだろうか。それが、これからの授業で、みんなと考えていきたいテーマなんです。

（石田英敬『自分と未来のつくり方―情報産業社会を生きる』による）

※1　大伽藍……寺院の建築物。
※2　活版印刷術……凸版印刷の一種。ここでは活字の本を作る技術の意。
※3　写本……手書きで写した本。または本を書き写すこと。
※4　啓蒙……無知の人を正しい方向に教え導くこと。

問一 二重傍線部①「メランコリック」、②「リテラシー」の本文中での意味として、最もふさわしいものを次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

①メランコリック

ア　批評的な　　イ　虚ろな　　ウ　泣き出しそうな

エ　物憂げな　　オ　怒りがちな

②リテラシー

ア　特定の分野で発揮される力

イ　ある分野の知識を活用する力

ウ　潜在的に秘められている力

エ　その分野の情報を収集する力

オ　資料を比較し考察する力

問二 傍線部1「聖職者たちの世界の崩壊」とは、一般的に「宗教改革」と言われる運動が原因となっています。この改革によって起こり得た状況の説明について、**当てはまらないもの**を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　聖書を自力で読むことができる人が増えることで、より神の教えに即した新しい宗派を信仰する人々が出てくる状況。

イ　活字を読める民衆が増えることで、聖書に関する多様な知識が一般社会に広まり、教会への信仰心が希薄になるという状況。

ウ　聖書を読める民衆が増えた結果、その教えに不満を持つ人々が現れ、聖職者たちや教会の権力が相対的に弱くなるという状況。

エ　字を読める民衆が大量に増えることで、神の教えに基づいて聖職者たちを次々と弾圧し、教会を破壊するという状況。

オ　聖書を読める人々が増えることによって、これまで教会によって教えられてきた聖書の単一的な解釈に反論が出てくる状況。

問三 傍線部2「後ろ向きの態度をとる人が出てきます」とありますが、なぜこのような態度をとるのですか。その理由として最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア　これまで活字文化の中にいた人は、新しいテクノロジーの文字の出現を軽く見ており、活字文化にはまだ力があると思い込んでいるから。

イ　活字による研究を評価されてきた知識人にとって、テクノロジーの文字を用いた研究では評価されにくいと感じているから。

ウ　知識人が身につけてきた知識や経験はこの先の時代では無駄になるため、テクノロジーの文字の出現を受け入れたくないから。

エ　デジタルの文字の出現によって、活字文化がこの先完全に消滅し、すべてテクノロジーの文字になってしまうのではないかと危惧しているから。

オ　知識人は一般の人々よりも知識を持っているという自負から、情報量の少ないテクノロジーの文字を簡単に認めることができないから。

問四 本文の空欄 X に入る文章として最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア iPhoneやiPadが、活字本や新聞を殺してしまわないかっていうことだ。
イ メディア革命が起こることで、活字文化は生きてはいけないっていうことだ。
ウ iPhoneやiPadが映画やアニメの良さを殺してしまうっていうことだ。
エ 活字文化が残り、iPhoneやiPadは殺されてしまうっていうことだ。
オ iPhoneやiPadは、メディア革命の中では生きていけないっていうことだ。

問五 傍線部3「活字文化のほうがレベルが高い、という前提」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア テクノロジーの文字がいくら発達しても、人間の思考と直接に結びついている活字の方が生き延びる可能性が高いということ。
イ 新しく出てきたばかりのテクノロジーの文字に比べて、物事を関連付けて抽象化する活字の方が高尚で、学問の役に立つということ。
ウ メディア空間の中でしか使えないテクノロジーの文字を使うよりも、教育によって活字に慣れた方が思考力を伸ばしていけるということ。
エ 映像や音声といったテクノロジーの文字が便利だとしても、活字を使ったコミュニケーションの方が、考えを主張しやすいということ。
オ 身近な生活の知識しか増やせないテクノロジーの文字よりも、生活全般や学問にも役に立つ活字の方が使い勝手がいいということ。

問六 傍線部4「文学が人間を自由にする」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 文学作品を読むことで、想像力がたくましくなった結果、自分のいる世界で何をなすべきかが理解できるということ。
イ 小説を読むことで使いこなせる言葉の数や表現の種類が増え、他者の気持ちを思いやることが可能になるということ。
ウ 文学作品を通して言葉にたくさん触れることによって、自分の無意識を言語化し、表現できるようになるということ。
エ さまざまな文豪の作品に触れることで読解力が向上した結果、独創的な解釈ができるようになるということ。
オ 小説を読み、さまざまな言葉を知ることは世界の成り立ちを知ることであり、多様な思考ができるようになるということ。

問七 傍線部5「いわゆる知識人と大衆の乖離という問題」とありますが、どのような問題であり、あるいは何が原因であると筆者は考えていますか。それらの説明としてふさわしいものを次のア～オの中から**二つ選び**、記号で答えなさい。

ア　活字文化の中にいる知識人たちよりもテレビタレントの方が人気があることで、難しい本は敬遠されるようになったが、それは活字文化の人気のなさが原因である。

イ　今後メディアがさらに発達したとしても、人間の思考と結びついた活字文化は滅びることはなく、知識人と大衆の距離がより離れてしまう可能性がある。

ウ　活字文化を支える知識人たちは、テクノロジーの文字に慣れていないためにピンチに陥っているので、彼らに対する啓蒙活動が今後必要となる。

エ　これまでの活字文化は知識人のものであり、大衆には敷居の高いものであったが、テクノロジーの文字の出現によって活字文化の持っていた力が弱まっている。

オ　知識人はテレビに出演することが少なく、テレビタレントに人気が集中しているが、今後はテクノロジーの文字の出現によって知識人の出番も多くなると言える。

問八 傍線部6「新しいテクノロジーの文字を本当に「読み書き」することができるようになって、はじめて僕たちは新しい「自由」を手に入れることができる」とありますが、ここでの筆者の主張としてふさわしいものを次のア～オの中から**すべて選び**、記号で答えなさい。

ア　活字文化を担っていた知識人たちは、活字があまり読まれなくなってきたため、困難な状況に陥っている。しかし活字に対する高いリテラシーを有している彼らなら、いずれテクノロジーの文字にも精通し、デジタル文化の中心となる。

イ　活字文化が衰え始めた現代社会においても、文学作品を読んだり新しい言葉を覚えたりすることは無意味なことではない。これから未来に向けて重要なのは、新しいテクノロジーに対して前向きにかかわっていくことである。

ウ　これまでの社会では活字に精通している人々が知識人としてもてはやされていたが、今後の社会ではさまざまなメディアを使いこなすことが必要となる。よって新しいメディアに慣れている若者こそが今後のデジタル革命を担う存在となる。

エ　現代はテクノロジーの進歩に伴い、活字以外にもテクノロジーの文字がさまざまなメディア空間で使われている。私たちはこの新しい文字について学び、使いこなせるようになることで、思考力や想像力を深めることができる。

オ　これまでの活字文化では文学作品を読むことで教養を育み、読解力を養ってきた。こうした力は今後の社会においても重要なものであり、さまざまなメディアを使いこなす力にもつながるものである。

問九　この文章を読んだ生徒が、授業の中で自分の考えを発表しました。本文の内容に沿った主張をおこなっているものを次のア～カの中から**すべて選び**、記号で答えなさい。

ア　今の時代はスマートフォンやインターネットなど便利な道具がたくさんあるよね。でも、使い方に気をつけないと、友達とのトラブルの原因になったり、勉強の妨げにもなります。使い方のルール作りが必要だよ。

イ　社会の時間に活版印刷技術について習ったけれど、みんなが本を読めるようになるのは改めてすごいことだったんですね。現代もデジタル革命によってこれまでの活字文化が終わろうとしています。

ウ　夏目漱石の小説を読んでいると、いまでは使われなくなった言葉遣いや表現が出てくるけれど、言葉の数が増えると思考も深まるんだよね。その意味では昔の小説を読む意義はこれからの時代にもあると言えるね。

エ　「抽象化」って難しい言葉だけれど、とても重要な考え方だよね。私たちは言葉を使って思考するのだから、言葉をたくさん知っていたり、いろいろな言い方を使えたりすることがそのまま思考力にもつながるってことかな。

オ　これからの時代は、活字があまり使われなくなるのではないかと思います。それよりも、iPadやスマートフォンなどの使い方に習熟することや英語を話せるようになることが世界的にも求められていますね。

カ　これからのグローバルな時代は、テクノロジーの文字の使い方に習熟しなければいけないけれど、一方で小説を読んだり、外国の人と語りあったりすることで自分の気持ちを相手に伝えることが重要です。

東京農業大学第一高等学校中等部
令和二年度入学試験（二月二日実施）国語　解答用紙

氏名

受験番号

得点

一

① ケイショウ　② オサメル　③ カツグ　④ メンミツ

⑤ 去就　⑥ 木陰　⑦ 発奮　⑧ 割く

二

問一
A
B

問二

問三

問四
①
②
③
④

問五

三

問一
①
②

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

問十一

※　※　※　※　※　※　※　※